

職員による自己評価

保護者による評価

A業務改善

- ・行事や勉強会等保護者からのアンケートを集計し、多かった意見や優先すべき意見の分析を行い、業務改善に活かしている。
- ・職員のスキルや経験年数に合わせた内容の研修が組まれているが効果を実感できないと感じる職員もいる。

B適切な支援の提供

- ・意向アンケートや面談で保護者と確認し、一人ひとりに合わせた支援をしている。
- ・活動内容がパターン化している傾向がある。
- ・日々の記録を支援の改善に活かさきれていない。

C関係機関との連携

- ・併行通園先への訪問や通園見学会の実施をしている。

D保護者への説明責任等

- ・運営規程は園内に掲示、利用者負担等は書面配布と入園説明会で説明を行っている。
- ・保護者へのお知らせはクラスだよりやメール配信を利用している。

E非常時等対応

- ・お子さんの身体の状態やアレルギー等は、必要時に入園前、看護師と栄養士で聞き取りを行い、担任と情報共有している。

A適切な支援の提供

- ・約9割の方に支援計画に沿った支援が行われているとの回答をいただいたが、個別の支援時間を増やしてほしいという意見もあった。

B保護者への説明等

- ・支援内容の説明やお子さんの状況の共通理解、面談等の家族支援が行われている意見が多かった。一部には、意思疎通の配慮が不足しているとの意見もあった。
- ・職員のスキルアップや面談内容（支援計画の内容だけではなく、困り感や課題・進路等の具体的なアドバイス）の検討をしてほしいという意見があった。

C非常時等対応

- ・非常災害時や緊急時の対応が周知・説明され、避難訓練も行われていると、9割以上の方に満足していただいている。

D満足度

- ・9割以上の方から、センターの支援に満足しているとの回答をいただいている。
- ・「行き渋りがある」「その家庭に合わせた支援をしてほしい」という意見もあった。



通園課内での分析

【共通点】

- ・保護者へ具体的に支援内容を説明し、一人ひとりに合わせた支援が行われている。
- ・クラス活動が固定化しないように、バリエーションが広がった方が良い。
- ・専門的な療育支援をするためにスキルアップが必要である。
- ・非常災害の発生や緊急時の対応に備え、避難訓練やその他必要な訓練を行っている。

【相違点】

- ・困り感や課題に対してのアドバイス、家庭の状況の理解や負担の軽減に合わせた通園形態やクラス編成、通園方法についての検討が不足している。
- ・お子さんや保護者との意思疎通の配慮が不足している。

分析・検討してみて…

通園課の強み

- ・お子さんの発達状況を理解し、一人ひとりに合わせた支援をしている。
- ・定期的にクラスだよりやメール配信等で、クラスの活動内容や園や地域のお知らせを保護者に発信している。
- ・併行先や関係機関への訪問や電話連絡で情報共有・情報交換を行う等、連携が密に行われている。
- ・非常時や緊急時に備え、必要な訓練を行っている。

通園課の改善点

- ・固定化しないような活動プログラムの検討、クラスの状況に合わせた1日の流れ等を検討していく。
- ・面談の際は、個別支援計画の確認だけでなく、保護者からの話を傾聴し、丁寧にアドバイスをしていく。
- ・お子さんや保護者のニーズに対応できるよう、柔軟なクラス編成や通園形態、通園方法を整理していく。
- ・日々の記録の充実、個別支援計画のPDCAサイクルを理解し、適切な支援をしていく。

通園課の改善への取り組み

- ・ICTシステムを活用し、職員の業務改善や保護者とのコミュニケーションに繋げていく。
(通園バス位置情報、出欠連絡、アンケート、緊急時やお知らせの配信等)
- ・個別支援計画のPDCAサイクルの確認や個別療育面談の進め方を検討する。
- ・活動プログラムのバリエーションを増やせるように、日々の記録を活かし、職員同士の情報交換を増やしたり、通園課内の研修を充実していく。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

令和5年度は、新型コロナウイルスが落ち着き、感染症予防に引き続き配慮しながらも流行前と変わらない療育を提供することができました。保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

今回の評価結果やご指摘いただいたご意見を踏まえ、お子さんの育ちと一緒に考え、一人ひとりに合わせた専門的な療育支援を目指していきます。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。